

岡山県における受検～受診～受療に至る効果検証と質向上のための

相談員・肝炎医療コーディネーターのあり方に関する研究

研究分担者 池田 房雄 岡山大学病院消化器内科助教

研究要旨

【背景】岡山県では肝炎検診や肝炎医療に関連した部局従事者で肝炎対策や最新肝炎医療の研修受講者を地域肝炎対策サポーターと認定しているが、厚生労働省の示す肝炎医療コーディネーターの要件をみたとはいえない。そこで、地域肝炎対策サポーターの現状を確認し、岡山県での肝炎医療コーディネーターのあり方を検討した。【方法】既に認定された約300人の地域肝炎対策サポーターに質問票を郵送し、地域肝炎対策サポーターとしての現在の活動実態調査を行った。【結果】地域肝炎対策サポーター147名から回答を得た。肝疾患関連部署に引き続き勤務していたのは回答者の57%だった。勤務していない回答者でも検査陽性者の受診勧奨を日常業務の中で3割が行っていると回答していた。【結語】本調査により地域肝炎対策サポーター研修は肝疾患関連部署に勤務しているかに関係なく肝炎検診の受検勧奨に有用と思われた。段階的な研修に参加し専門性を高めたいとの希望が多かった。

A．研究目的

岡山県では平成26年度から公的保健機関、医療機関、企業における肝炎検診や肝炎医療に関連した部局従事者を対象に、肝炎検診の重要性や検査陽性者の肝炎専門医療機関受診の必要性、厚生労働省肝炎対策や最新の肝炎医療について3時間程度の研修を行い、受講した者のうち希望者を地域肝炎対策サポーターとして認定している。しかし、厚生労働省の示す肝炎医療コーディネーターの要件を十分みたとはいえない。また長時間の研修を行っているとはいえない。そこで、地域肝炎対策サポーターの現状を確認し、岡山県での肝炎医療コーディネーターのあり方を検討した。

B．研究方法

既に認定された約300人の地域肝炎対策サポーターに質問票を郵送し、地域肝炎対策サポーターとしての現在の活動実態調査を行った。

（倫理面への配慮）

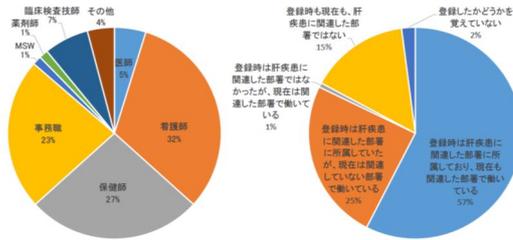
当院倫理審査承認済

C．研究結果

地域肝炎対策サポーター147名から回答を得た。職種は看護師と保健師が全体の6割を占めていた。回答者の57%はサポーター登録時から現在まで肝疾患関連部署に引き続き勤務していたが、関連のない部署に25%の人が異動していた。その他、施設管理者として参加していた人もいた。

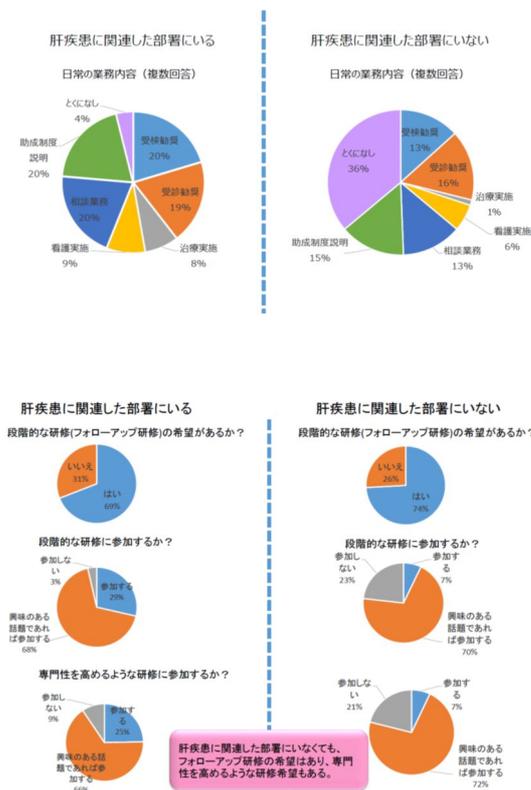
地域肝炎対策サポーターの活動実態調査

N=147



現在、肝炎に関連した部署で働いている 85人(58%)
 現在、肝炎に関連していない部署で働いている 58人(38%)

現在、肝炎関連部署勤務の A 群 (85 人、58%) と非関連部署勤務の B 群 (58 人、38%) で比較すると、肝炎検診の受検や検査陽性者の受診勧奨を日常業務の中で行っているのは A 群で 39%、B 群でも 29% だった。また、B 群の 72% は受検勧奨を行ったことがあると回答していた。



段階的な研修をフォローアップ研修として受けたいと A 群 B 群とも 7 割の人が希望していた。

D. 考察

本調査により地域肝炎対策サポーター研修は肝炎関連部署に勤務しているかに関係なく肝炎検診の受検勧奨に有用と思われた。段階的な研修に参加し専門性を高めたいとの希望が多かった。

E. 結論

次年度の課題としては、岡山県での肝炎医療コーディネーターは肝炎検診陽性者の医療機関受診や受療向上に重点をおいて養成する。

F. 研究発表

1. 論文発表

肝炎ウイルス検査陽性患者に対する検査報告システムの効果的な運用方法 肝臓専門医受診率向上のさらなる工夫 肝臓 58 巻 8 号 427-434 2017 年

2. 学会発表なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得なし

2. 実用新案登録なし

3. その他なし

